

(別紙 5)

補助事業番号 23-4-005  
補助事業名 平成 23 年度（復興支援）被災者や被災地域が自ら行う復興活動 補助事業  
補助事業者名 特定非営利活動法人 多言語センターFACIL

## 1. 補助事業の概要

### (1) 事業の目的

- A. 日本語の理解の不十分な被災者は情報難民となりやすい。被災後、復旧・復興への道の中で、一人でも多くの人が正しい情報を得られるように多言語化した情報を届ける。
- B. 被災地での生活の再建、復興において、誰一人として取り残されるべきではない。特に文化的背景や言語ギャップのせいで取り残されることのないように、地域での多文化共生が必要である。本事業では被災したフィリピン人移住者たちが地域社会で活躍していける基盤としての自助・互助活動を行うコミュニティ構築とネットワークづくりを目指す。
- C. 被災地の状況や被災者の声を知りたいと望んでいる人々は日本全国のみならず世界各地にいる。フィリピン人移住者たちが自らの視点とことばで情報を発信することで、マスメディアでは報道されない被災地の状況や被災者本人たちの声を、日本全国のみならず海外の人々にも伝える。

### (2) 実施内容

日本語が母語でない被災者への情報提供のために多言語災害情報音声データ CD を被災地の臨時災害 FM 局に手渡した。ライフライン復旧後は郵送も行った。インターネット環境が復旧するのに合わせて、誰でもダウンロードして使用できるようにインターネット上にも公開した。



被災者生活再建支援金について:120報  
07/04/2011

被災者生活再建支援法に基づき、居住する住宅に被害を受けた世帯に支援金が支給されます。支援金は、住宅の被害程度に応じて支給される基礎支援金と住宅の再建方法に応じて支給される加算支援金です。

支給額は、基礎支援金と加算支援金の合計額となります。  
単身世帯(世帯人数が1人)の場合は、各欄の金額の3/4の額となります。

基礎支援金は、全壊などの場合は100万円、大規模半壊の場合は50万円が支給されます。  
加算支援金は、建替 購入の場合は、200万円、補修の場合は100万円、公営住宅を除く貸付は50万円が支給されます。  
支援の対象となる世帯は、住宅が全壊や半壊などの被害を受けた世帯です。  
詳しくは、住宅所在地の各市町村にお問い合わせください。

英語 [音声データ\(MP3\)](#) [テキスト](#)  
中国語 [音声データ\(MP3\)](#) [テキスト](#)  
韓国朝鮮語 [音声データ\(MP3\)](#) [テキスト](#)  
ベトナム語 [音声データ\(MP3\)](#) [テキスト](#)  
タガログ語 [音声データ\(MP3\)](#) [テキスト](#)

東日本大震災以前より(財)団法人自治体国際化協会「JICA 兵庫・国際防災研修センター」 「FMいわい」 「多言語センターFACIL」の被災ツールとして共同制作した音声素材に加え、今回被災地からのニーズに基づき、各多言語支援センター※1などにおいて原稿作成、録音された文章をもとに制作した音声素材が収録されています。収録

被災したフィリピン人移住者たちを対象として、ミキサーの使い方から始まり、音声収録の仕方、インタビュー方法、番組の作り方などのラジオ番組制作の講習を実施した。

その後は定期的に集まり、放送内容について



(別紙 5)

話し合いを重ね、全部で 6 本の番組を制作した。番組では自分たちの被災体験を語り合い、日本に来日して日の浅い外国人が困るであろうこと、知っておくべきこと、やっておくべきことなどを話し合った。

例えば、日本語学校や日々の生活では耳にしないが覚えておくべき単語（高台、避難所、防災など）の紹介や、地域で「防災訓練」が行われること、それに参加することの大切さなどである。

また、地域のお祭りでインタビューを行い、参加者と交流を深めたり、自分たちのこれまでの日本での経験、日々の生活、家族のことなどを語り合うようになっていった。



収録した神戸の FMYY にて放送され、インターネットでも配信された。関西在住のフィリピン人移住者やフィリピン本国やアメリカ、カナダに住むフィリピン人たちも番組を聞き、被災地から被災者が自らの声で直接状況を語り合っていることに反響があった。

番組制作のために集まることで、震災前には話したことのない者同士が自分自身の経験を語り合い、励ましあう「場」が形成されていった。今後はこの「場」が自助・互助組織としてのコミュニティへと育っていくことが期待される。



また、facebook、SMS などを情報提供や情報交換のツールとして積極的に使っている。紙媒体と違い、いつでもアクセスしやすいため、広範囲にわたる被災地に点々と暮らすフィリピン人移住者たちや日本各地に住む人々とネットワークを広げる一助となっている。



(別紙 5)

## 2. 予想される事業実施効果

震災前までは個々人が各家庭にうもれるように暮らしていたフィリピン人移住者たちは孤立していた。情報が少なく、人間関係も自分の家族のみという環境の中、何かしようと考えてもできることは限られていた。例えば仕事にしても水産加工工場か、パブやスナックでアルバイトなど選択肢は限られ、半ばあきらめの境地であった。本事業のラジオ番組制作の活動を通して、フィリピン人移住者たちが語り合い、いろいろな情報を交換できる場が形成されていった。そこでは同じ境遇の仲間に出会うことができ、介護ヘルパーの資格取得やそのための勉強会の情報を得ることができた。お互いに励まし合って勉強し、資格を取ってヘルパーとして働く者も出てきた。高齢化が進む日本社会で、自らの経験(家族の面倒をみる)やフィリピン人であること(年長者を敬い大切にする価値観)を生かして役に立つことができるという自信も生まれつつある。また、震災後の復興期に日本社会に前向きに貢献しようとする彼女たちの姿が、各々の家族、地域社会、さらには日本社会の「外国人」に対する認識を変え、「違い」を活かしあう多文化社会へ向けての一石となるはずである。

## 3. 本事業により作成した印刷物等

無

## 4. 事業内容についての問い合わせ先

団体名: 特定非営利活動法人 多言語センターFACIL (トクテイエイリカツウホウジン タゲンゴセンターファシル)

住所: 653-0052 兵庫県神戸市長田区海運町 3-3-8 たかとりコミュニティセンター内

代表者: 理事長 日比野 志津代(リジチョウ ヒビノ シヅヨ)

担当者名: 李 裕美(リ ユミ)

電話番号: 078-736-3040

FAX: 078-737-3187

Email: [facil@tcc117.org](mailto:facil@tcc117.org)

URL: <http://www.tcc117.org/facil/>